

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：八幡市

プロジェクト名	男山地域再生・定住促進プロジェクト ～地方創生の先駆け～	実施期間	平成25年度～ 平成28年度	テーマ	地方創生	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>この間京都府から「まちの仕事人」の派遣・ご支援をいただいております。UR都市機構及び関西大学との三者で進めていた「男山地域まちづくり連携協定」を山田啓二知事の立会のもと締結することができた。</p> <p>八幡市の男山地域は、昭和47年に団地の第一期入居が開始され、現在では市の人口の約3分の1を占めている。地域の核をなす総戸数約6,000戸の男山団地では、建物の老朽化や少子高齢化などの課題がある。また平成19年12月にUR都市機構より発表したUR賃貸住宅ストック再生・再編方針において、集約型の団地再生とされたため、既存のストックを活かし、活性化に向けた取組を行っていく必要がある。</p> <p>八幡市の活力がありつづけるためには、男山地域に活力がなければならない。</p>						
プロジェクトの目的及び概要	<p>男山地域の再生について住民等、京都府、UR都市機構及び関西大学と協働し、将来を見据えた快適なまちづくりを促進するため、男山地域再生基本計画を策定し、具体的な取組についても順次検討していく。</p> <p>男山地域再生基本計画の将来目標「地域とともに元気な暮らしができる、住みたい、住みつけたい男山」の実現に向け、住民自らが主体的に動くことができるように関係機関と連携して支援を行うとともに、庁内の体制強化を図っていく。さらに、男山地域安全・安心コミュニティ創造プロジェクトについて京都府と連携しながら取組を進める。</p>						
	総事業費（千円）	430,277	本年度事業費（千円）	430,277	交付金額（千円）	28,091	
プロジェクトを構成する事業の平成28年度事業実績(出来高数値等)							
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）		
市町村 実施事業	男山地域の憩いの場所 生涯学習センター整備事業	交付対象事業	生涯学習センターの改修工事		空調機改修・屋上防水工事		
	ふれあい訪問ごみ収集事業	交付対象事業	1人住まいの高齢者宅等に個別訪問・収集を実施		100件		
	男山地域わかたけ保育園整備事業	交付対象事業	耐震補強等わかたけ保育園大規模改造工事		耐震補強、老朽改修、太陽光発電設置等		
	福祉センター改修	関連事業	集団療育をしている児童のケガを防止するための改修を実施		2階ホール床老朽改修		
	親子のコミュニティスペース、子ども動物園リニューアル事業	関連事業	子ども動物園再整備実施方針の策定		現況調査、アンケート調査実施		
住みたい、住み続けたい！！男山地域定住促進事業	交付対象事業	京都府、関西大学、UR都市機構と連携して、「住みたい、住みつけたい男山」を目指して男山地域再生に取り組む。先進地視察、だんだんテラス運営、大学連携コーディネート業務、分譲集合住宅再生検討業務等。		情報紙（だんだん通信）毎月1回発行 ワークショップ開催 等			

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：八幡市

住民協働事業	男山地区スタディサポート事業	交付対象事業	男山地区を対象に、京都府内で初めての取組として民間教育事業者による学習機会の提供や英語教室の開催、学習支援員の配置を行い、やる気ある児童生徒の学力向上を手助けする。	受講者 小学生41人 中学生120人	
	男山団地内地域包括ケア複合施設助成事業	交付対象事業	男山団地の高齢者が安心して住み続けられるように、男山団地内に地域包括ケア複合施設を新設。特養、ケアハウス、24時間訪問看護や健康維持の体操教室等に使用する拠点整備を行う。	男山地域再生・地域包括ケア推進拠点整備助成	
住民が取り組む事業					
成果指標①	成果指標の目標数値	男山やってみよう会議参加者数 250人		成果指標の実績値 (29年4月1日時点)	326人
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	前年度より増、目標数値より増となり、男山地域に関心を持つ人が増えてきていることが伺えるため	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	(時期)	
成果指標②	成果指標の目標数値	ふれあい訪問ごみ収集件数 80件		成果指標の実績値 (29年4月1日時点)	100件
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	前年度より増、目標数値より増となり、事業の定着が伺えるため	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	(時期)	
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	京都府知事立会のもとUR都市機構、関西大学及び本市の三者による「男山地域まちづくり連携協定」を締結し、男山地域再生に取り組むなか、男山地区スタディサポート事業やふれあい訪問ごみ収集の実施等により、男山地域の高齢者、子育て世代のニーズに合わせた活性化に向けた取り組みを行った。				
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。				
	関連事業との連携効果	新規移住者の親子が気軽にふれあうことができるコミュニティスペースとして活用するための構想を策定することで、子育て世帯の移住促進・男山地域の再生に寄与する。			
	府と市町村等との連携に資する成果	京都府の立会いのもと、UR都市機構及び関西大学との三者で「男山地域まちづくり連携協定」を締結し、男山地域再生に向けた取り組みを進める。			
	住民の自治意識を高める成果	ふれあい訪問ごみ収集により、1人住まいの高齢者の孤独や不安を払拭し、自治意識を向上させた。			

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：八幡市

本プロジェクトに対する自己評価	リーディング・モデル成果	「男山地区スタディサポート事業」は、京都府内で初めての取組として民間教育事業者による児童生徒の学力向上を図り、学力向上事業のモデルとなる。
	広域的波及成果	地域の核をなす総戸数約6,000戸の男山団地の再編は、今後の八幡市全体の人口問題に影響を及ぼす。
	行財政改革に資する成果	
	その他の成果	

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。